

JASE

現代性教育 研究ジャーナル

MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2016年
No. 68
2016年11月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会
THE JAPANESE
ASSOCIATION
FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL http://www.jase.faje.or.jp 発行人 鈴木 勲 編集人 中山博邦
© JASE. 2016 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

「世界性の健康デー in Hawaii」報告……………1	もっと知りたい男子の性 ¹⁶ ……………10
「世界性の健康デー in 京都」報告……………6	今月のブックガイド……………12
Dr.上村茂仁の性の悩みクリニック ⁸ ……………9	JASEインフォメーション……………13

◎ 「世界性の健康デー in Hawaii」報告

Breaking the Myths about Sexual Health

セクシュアル・ヘルスに関する嘘を壊せ

日本性科学連合 (JFS) 事務局長 今福貴子

はじめに

「世界性の健康デー (World Sexual Health Day ; WSHD)」は、性科学に関する最大の国際学会である「性の健康世界学会 (World Association for Sexual health ; WAS)」が2010年に制定した記念日だ。毎年9月4日を「世界性の健康デー」とし、世界各国で性の健康 (セクシュアル・ヘルス) や性の権利 (セクシュアル・ライツ) に関する同一テーマのもと啓発イベントが開催されている。日本でも2010年から毎年、東京・大阪・横浜などで開催されてきた。

2016年の世界共通テーマは「Breaking the Myths about Sexual Health (セクシュアル・ヘルスに関する嘘を壊せ)」。本年、日本の性科学関係者が主催者として開催するイベントは、ハワイと京都の2カ所で同日に開催されることとなり、筆者はハワイでのイベントに参加した。



オアフ島にあるハワイ・パシフィック大学ロア・キャンパスのラナイ会場でのオープニング

日本のイベントがなぜハワイで開催されることになったかといえば、ちょうどその時期に、大阪府立大学教授の東優子さん・山中京子さん、東海大学教授の小貫大輔さんの3人が学生を連れてのスタディ・ツアーでハワイを訪れることになったからだ。この3人は、WASやAOFS (アジア・オセアニア性科学連合) 等でグローバルに活躍しており、日本の性科学を牽引し

ていると言って過言はないだろう。ことに WAS の役員である東さんは、世界性の健康デーの委員でもあり、WAS 及び世界性の健康デーの日本の窓口・責任者と言える立場だ。今回のハワイ・イベントでも、企画から運営まで八面六臂の働きをされていて、頭が下がる思いだった。この場を借りて改めて御礼申し上げます。ありがとうございました！ お疲れさまでした！

マフーによる歓迎の儀式

2016年9月4日(日)13時(現地時間)、ハワイ・パシフィック大学のロア・キャンパスを会場にイベントが始まった。ロア・キャンパスは、オアフ島の北東カネオヘ地区を望む大自然の中に広がる美しい環境にある。オープニングから15時までの会場は半屋外のラナイ(ハワイ語でベランダまたは屋根付きのパティオを意味する)で、豊かな緑と霧に煙る山容がステージの借景となっていた。生憎の曇天で、時折、激しいスコールが降る場面もあったが、それもまたハワイの大自然に触れるようで趣深かった。

東さんからの短い開会挨拶に続いてまず披露されたのは、クム・ヒナ(Kumu Hina)さんによるハワイ伝統の歓迎の儀式「チャント」だった。チャントは、神や自然、魂(スピリット)のことなどが織り込まれ



ハワイ伝統の歓迎の儀式「チャント」を披露するクム・ヒナ(Kumu Hina)さん

た詠唱、祈りの歌であるという。ハワイ語であるため意味はまったくわからないものの、日本の祝詞や経にも少し似て、言葉の抑揚が心地よく神秘的だった。

ヒナさんは「マフー(mahu)」である。マフーはハワイ語で、あえて現代的な英語にすればトランスジェンダーだ。マフーは、女性と男性、両性の強さをもつ存在としてハワイでは古くから尊敬を集めてきた。

それぞれの文化における挨拶

続いてのプログラムは、小貫さんと、ハワイ・パシフィック大学教授のピーター・マタイラ(Peter Mataira)さんによる「Shake Up Your Culture with Brazilian Kisses and Māori Hongi(ブラジル式・マオリ式の挨拶であなただの文化を揺るがす)」。

小貫さんは教授を務める東海大学の授業で、日本式挨拶のお辞儀、西洋式挨拶の握手、そしてブラジル式挨拶のキスの仕方を教えている。三者三様の挨拶から三者三様の文化の特徴を体感できるワークショップだ。筆者も、2013年に開催された第21回WASブラジル大会以来、数度このワークショップを体験しているが、小貫さんの呼びかけで皆が立ち上がり、隣にいる人とお辞儀や握手、キスを行うことで、会場が一気に和やかになる。毎回、素晴らしいプログラムだなあと感動させられる内容だ。今回のイベントでは、小貫さんの教える3つの挨拶に加え、ニュージーランド・マオリ族の子孫であるマタイラさんによって、マオリ族の挨拶である「ホンギ」も教えてもらった。

マタイラさんのお話では、ホンギは息を使った挨拶で、出会った者同士がこの挨拶を交わすことで、同



マオリ族の挨拶である「ホンギ」をしている小貫大輔さんとピーター・マタイラさん

時に先祖たちも出会ったことになるのだという。ホングの方法は、お互いに向き合って額と鼻をくっつけ、片方が息を吐いたらもう片方がその息を吸い、次は先に息を吸った人が息を吐いて、もう片方がその息を吸うというものだ。互いに身体に触れることのないお辞儀の挨拶を交わしている日本人にとっては、なかなか衝撃的な挨拶である。タイトルどおり、まさに自らの文化を揺るがされた参加者が多かったのではないだろうか。

クム・ヒナさんの「これが私」

イベント冒頭でチャントを披露してくださったマフーのクム・ヒナさんが再び登壇し、「'O Au No Keia: This is Who I Am (これが私)」と題した講演をされた。時間は30分用意されていたが、日本語への通訳も入るため実質的には15～20分くらいの短い講演である。しかし、たいへん心を打たれる素晴らしいお話だった。講演の最初に、「これから私のことを話しますが、この話を通じて皆さんがご自身のことを学ぶ時間になることを祈っています」と語られたとおり、西洋的なものの考え方に染まっている自分自身、また日本の文化を考えずにはいられなかった。

マフーは、ハワイの文化の中では、ハワイの人々のために仕え、教える、重要な役割を果たしている存在として尊敬されている。しかし、ハワイ語でハオレと呼ばれる外国人は、マフーを「男性だけど女性のように語り、振る舞う人」と理解し、今ではホモセクシュアルという意味でも捉えている。これが大きな問題であるとヒナさんは語った。西洋の考え方に従えば、レズビアン (L)、ゲイ (G)、トランスジェンダー (T) などいろいろな名前が付けられてグループ分けされてしまう。直接的な言い方をすれば、ペニスを持っている人とヴァギナを持っている人、ペニスが欲しい人、ヴァギナが欲しい人に分けられてしまう。けれど、私は私である。私は私でありたい、というだけだ。私の文化にとって大切なのは、男か女かやLGBTはさておいて、自分がどんな人間なのか、私の中にどんなスピリットが宿っているのかなのだ、というお話であった。

「お互いのことを能力で見ようではないですか。お互いのためにどのように奉仕できるのかで見ようでは

ないですか。私たちは、先祖や歴史の上に成り立っています。民族の文化に誇りを持っていきましょう」

講演後の質疑応答も印象に残った。フィンランドから参加したトミ・パーラネン (Tommi Paalanen) さんから「確かに西洋の考え方というのは分析的だけど、対立するものとするのではなく、それぞれのいいところを組み合わせることは出来ないか」という旨の質問がなされた。それに対しヒナさんは、「私たちは外からの影響に溺れそうになりながら、必死に戦って本来の姿を取り戻そうとしている。そのことを理解して欲しい」と答えた。講演中の穏やかな口調とは少し異なるやや厳しい口調に感じられ、そのことから、西洋の文化に浸食されつつあるハワイでハワイ本来の文化を守ろうとされている状況が透けて見えるようであった。

筆者は先にマフーのことを「あえて現代的な英語にすればトランスジェンダーだ」と書いたが、ヒナさんのお話を聞いた後では、本当はそうのように書くべきではないのだと思う。マフーはマフーなのだ。

WAS 役員からのメッセージ

ラナイでの最後のプログラムは、WAS 役員のトミ・パーラネンさんとサラ・ナセザセ (Sara Nasserzadeh) さんによる「Why Do We Need Myth-Busters in Sexual Health? (私たちはなぜセクシュアル・ヘルスに関する神話〈嘘〉を撃退しなければならないか)」だった。

まず登壇したトミさんはフィンランドの哲学者である。彼はここで言う「Myth」を「人々が理由もなく



フィンランドから参加した哲学者でWAS 役員のトミ・パーラネン (Tommi Paalanen) さん

信じていること」と定義した上で、その Myth が男性と女性の果たすべき役割を決め、時に、あるいはしばしば暴力的な形で押し付けられていると語った。科学的な根拠がなくても、その Myth は倫理観や昔ながらの価値観と結びついていて打破することは難しい。

一つのやり方としては、その価値観を体現している力のある人に話をすること、例えば宗教が価値観を押し付けているのだとしたら、その宗教と無関係な人が話しても価値観を崩すことはできないので、宗教の中で力のある人に話してもらうという方法がある。そのためにはさまざまなジャンルにわたる人々の協力が必要だ。ジェンダーやセクシュアリティは新しい分野なので、昔ながらの価値観と戦うのは大変だが、人間には新しい考え方、新しい知識を受け入れていく能力がある。そして、能力というのは使わないと衰えるものであるから、常に興味・関心を持っていきましょう、というのがトミさんからのお話の概要だった。

次に登壇したサラさんは社会心理学者だ。イランで生まれ、英国で教育を受け、ニューヨークに8年間暮らした後、現在はカリフォルニア州サンフランシスコ在住。国連の仕事をされており、これまでに30カ国以上を訪れたという。

サラさんは、普遍的に信じられている Myth の例として「ニンジンが目に良い」と言われていることを挙げた。「この Myth を信じている人はいますか?」と呼びかけたところ、参加者から多くの手が上がった。ニンジンのように何となく信じていて、わざわざ真実を調べたり人と語ったりしない Myth はたくさんあり、性に関する Myth はプライバシーに関わるだけに



国連の仕事をしている社会心理学者で WOS 役員のサラ・ナセザセ (Sara Nasserzadeh) さん

り人と話すことはない、という彼女の話には説得力があった。

「ニンジンが目に良いと信じていても被害はありませんが、性に関する Myth は人権を侵害し、危害を加えることがあります。例えば処女膜を非常に重要視する文化や国があった場合、処女でない人、処女膜を失った人は殺してもいいんだということになりかねません。Myth が信念に変わり、社会や文化に根付いてしまうと意義を唱えることさえ難しくなります。ましてや意識を変えるのはさらに難しいことです」

サラさんは次の3つのポイントを参加者へのメッセージとして挙げ、講演のまとめとした。

- ①あなた自身のインテリジェンスを信じてください。
- ②疑問を持ってください。ニンジンが目に良いと聞いたなら、読んだり調べたり、人に聞いたりしてください。私たちは子どもの頃、女性の性器を「あそこ」など自分自身とかけ離れた言葉で呼ばれてきた経験があると思います。そういったことは、後々、自分がどんなセックスをするのか、どんなセクシュアリティを生きるのかといったことにまで繋がっていくのです。
- ③勇気と好奇心を持って、決して Myth を次世代に伝播させないでください。

性科学の巨星が語る性に関わる Myth

30分間のコーヒブレイクの後、15時～16時30分まで3つの教室に分かれてプログラムが進行した。AC204教室で行われた「Sexual Health in the Middle East, Africa, Japan, Finland, USA and Hawai(中

Lecture Series/Workshop Program		Lanai	What is World Sexua
13:00	Oli Ho'okipa: Chant of Welcome (Kumu Hina)		In 2010, the World Association for Sexual Health (WAS) called all their organizations on each September 4th, World (WSHD) in an effort to promote awareness on sexual health a first WSHD was celebrated with talk about "IT" to start break surrounding sexuality. WSHD in 35 countries with a wide from Round Tables of Discussion and Art Exhibitions, County of activities to schools, media, universities, public squares, groups, etc. WSHD 2016 will stand in the way of achieving and well-being. WAS wants to health issues are discus
	Shake Up Your Culture with Brazilian Kisses and Māori Hongi (Daisuke Onuki and Peter Mataira)		
13:30	'O Au No Keia: This is Who I Am (Kumu Hina)		
14:00	Why Do We Need Myth-Busters in Sexual Health? (Dr. Tommi Paalanen and Dr. Sara Nasserzadeh)		
14:30	Coffee Break		
15:00	AC 204 - English only	AC 205 - English only	AC 101 - Japanese
	Myth of Cultural Exclusion (Dr. Peter Mataira)	Busting the Myth of the Sexuality of Elders (Dr. Patricia M. Burrell)	Reproductive/Sex (Grace Alvaro C)
15:30	Sexual Health in the Middle East, Africa, Japan, Finland, USA and Hawai'i (Sara, Tommi, Chizuko/Yuko)		Youth and Sexu Workshop (Dr. Lyndall and I)
16:30	Myth and Science (Dr. Milton Diamond) and Discussion - AC101		
Action Plan & Potluck Party			Lana
17:30	Get together, get to know each other, and get thinking about action plans while eating an (Paul Tuan Tran and Yuko Higashi)		
20:00	Closing		

当日のプログラムの一部



左から小貫大輔さん、ミルトン・ダイヤモンドさん、池上千寿子さん、東優子さん

東・アフリカ・日本・フィンランド・アメリカ・ハワイのセクシュアル・ヘルス)」には、日本から、ぶれいす東京元代表の池上千寿子さんも登壇された。

池上さんは、世界的に著名な性科学者である、ハワイ大学のミルトン・ダイヤモンド (Milton Diamond) さんのもとで学んだ最初の日本人だ。その後、山中さん、東さん、小貫さんらがハワイに留学して性科学を学ぶ先鞭をつけたと言えるだろう。16時30分からは一つの教室に集まってダイヤモンドさんの講演が行われたが、ダイヤモンドさんという巨星の師と、池上さん、山中さん、東さん、小貫さんと年代もさまざまな日本のかつての生徒が一堂に会し、言葉にせずとも師弟の絆を感じさせる様には、歴史的な瞬間を目撃しているような感動があった。

レクチャープログラムの締めくくりとなったダイヤモンドさんの講演タイトルは「Myth and Science (神話〈嘘〉と科学)」。自然は多様性を愛しているけれど、社会は多様性が嫌いであるとして、さまざまなMythの例を挙げられた。日本の残念なところとして話されたのは、障害をもつ人は性的な存在になれないという考え方だった。強制的に人工妊娠中絶が行われたりするのは馬鹿らしい、障害は遺伝することがないわけではないけれども多くはそうでないのに、と語られていた。

性別は男と女しかないのか？ 実際には卵巣と精巣の両方を持って生まれる人もいる。性染色体は、男性はXY、女性はXXだが、Xが一つ多いXXYのクラインフェルター症候群、X一つだけのターナー症候群などの人もいる。

性的指向は、同性愛か異性愛のどちらかしかないの



日本から参加した大学生たち

か？ 性科学者アルフレッド・キンゼイは、性的指向はグラデーションであるとして0～6のスケールに分けた。0は異性愛のみ、6は同性愛のみ。しかし、2や3の人もたくさんいる。

また別のMythとしては処女膜が大切だという考え方がある。しかし、処女膜が生まれたときからない人、成長するにしたがってなくなることで起きてくる。なのに、このMythのために、お金をかけて処女膜を作り直す整形手術を受ける人もたくさんいる……。

こういった性に関わるMythの例を挙げられた後、大切なのは疑問を投げかけること、興味・関心を持ち続けることだ、とダイヤモンドさんは話をまとめた。この結論は、先に行われたトミさんやサラさんの講演のまとめとまったく同じである。

おわりに

午後から始まったイベントはここで一区切り。ラナイでピザやスナックを食べながらのポットラックパーティーに移った。そして最後に再び教室に集まり、30分程、ハワイ・パシフィック大学のポール・ツァン・トラン (Paul Tuan Tran) さんによる、今日の振り返りのアクション・プランが行われ、20時過ぎにイベントは幕を閉じた。

国際会議ほどではないにしても、さまざまなバックボーンを持つ人たちが集まって開催された今回のイベントは本当に興味深く、有意義で、勉強になった。いつか日本でも、今回のようなイベントが開催されるといいのに、と心から思う。

◎ 「世界性の健康デー in 京都」報告 〈性教育研修セミナー 2016 夏〉

「性と神話 — 解き放つ —」

9月4日は、世界性の健康デー（World Sexual Health Day:WSHD）。日本では、東京を中心に記念イベントが開催されてきた。今年は開催地を代えて、「性と神話—解き放つ—」をメインテーマに京都で開催された。4人の講師を迎えて行われた「世界性の健康デー 2016 in 京都」の概要を報告する。

主催：世界性の健康デー 2016 実行委員会

はじめに

午後2時より、「社会宗教学から語る現代における性と神話」をテーマに小保内太紀氏（京都大学大学院教育学研究科）の講演より始まった。続いて、午後3時より本紙の連載執筆者である早乙女智子氏（京都大学大学院医学研究科客員研究員・産婦人科医師）と岩室紳也氏（ヘルスプロモーション推進センター代表・泌尿器科医師）の講演と対談、午後4時30分から宇野賀津子氏（ルイ・パストゥール医学研究センター基礎研究所インターフェロン・生体防御研究室室長）が「フクシマから見る“性・家族”—災害が引き起こしたオトコとオンナの実態—」と題した講演を行った。

社会宗教学から語る現代における性と神話

小保内氏の専攻は社会学、氏は大学院での研究の傍らフリーのお笑い芸人としてライブ活動も行っているという。

社会学とは、そもそも何か、ということから講演は始まった。

「社会学する」とは、一言でいうと「社会を探検する」こと。世の中には、わかっているようで、わかっ



ていないことがいろいろある。社会学では社会と人間について知るに値する現象や問題は何でも研究対象となるが、想像力だけで研究を進めるものではなく社会学が重視するのは、正確に現実をふまえること、具体的データで裏づけを取ること。

社会学とは、個人と社会の相互の関係に基本的視点をおき、世界的規模で急速に複雑化する現代社会のさまざまな現象や課題、また、人間の社会的共同生活について研究する学問で、社会学は社会の変化に敏感に研究対応できるところに学問的特徴があり、「今」を理解し「明日」を予測できる力、そして、他者との共生へのしなやかな感性を学ぶことができるという。

小保内氏は、現代社会における性と神話をテーマに話題を移した。氏は神話を「確かな根拠はないが信じられているもの」と定義した。この視点から現在の日本の、神話（例えば「男性らしさ」の神話、「女性ら

「処女厨」

- 女性は結婚まで処女であるべきだ、と主張する派閥
- 性愛と結婚の分節によって、もはや現実には「物語」は解体されている
- 二次元のキャラクターに飛び火
- 「性交経験の有無」というデータベース的認識

「バブみを感じてオギャる」

- 自分よりも年下の二次元キャラクターに母性を見出し、仮想的な母子関係を設定することで退行願望を満たす
- 「ロリコン」と「マザコン」の融解

しさ」の神話や「ロマンチック・ラブ」の神話などが崩壊していき、新たな「神話」である二次元性文化（腐女子、処女厨、バブみを感じてオギャる、モンスター娘など）が登場していると紹介した。

小保内氏の論の中では、その新しい二次元性文化は、検索や蓄積が容易にできるよう整理された情報の集まり、つまりデータベースであり、日本人はそのデータベースの幻想（自分の欲求を理想化した架空の創造物）を追いかけているのだという。これは現実からの逃避であると、氏は結論づける。

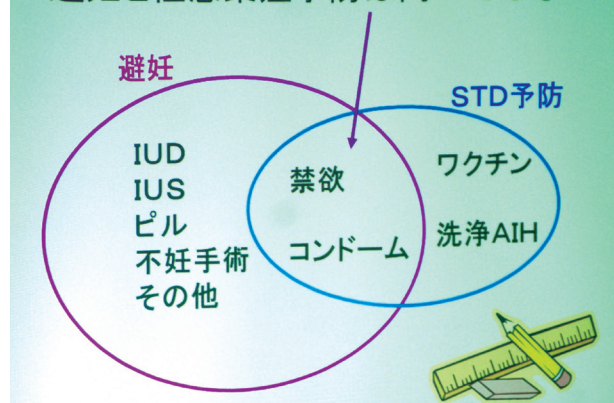
コンドームの使用をめぐる

休憩を挟んで、早乙女智子氏と岩室紳也氏の講演と対談が始まった。

一番手として、早乙女氏が「とりあえずコンドーム、でもいいの？」をテーマにコンドーム嫌い派の立場から講演を行った。まず、世界各国のコンドーム使用の現状を紹介し、避妊と性感染症予防を混同している現状に疑問



避妊と性感染症予防は同一ではない



を投げかけた。

避妊を考えるならば、様々な避妊方法があるのであるから、立場や場面によって多様に選択してよいのではないかという。「性について真剣に考えるとはどういうことなのだろうか？」と問い、異なる興味深いデータやエピソードを紹介したうえで「何が何でもコンドーム」は奇妙だと主張した。避妊は、脱コンドームの方向にあり、日本はその点では遅れているという。

そのうえで「コンドームが守るもの」として、次の5項目を示した。

- ①ペニス・アナル・膣などの性器
- ②性感染症の蔓延防止
- ③望まない妊娠（誰が望まないかが重用）
- ④お互いの信頼関係 プライド
- ⑤既知の感染症を相手にうつさない

続いて、「コンドームの達人」を自他共に認める岩室紳也氏が、「コンドームの達人の独り言」と題する講演を行った。

岩室氏は、コンドームを付けるとき、どういうアプローチで付けるかが重要であると話を始めた。数多くの学校での講演経験をもとに、コンドームを知らない高校生が増えているという。



望まない妊娠、性感染症、子宮頸がんの原因であるHPVウイルス感染、HIV感染など、コンドームを何時、どのような状況で付ければよいかを知っていれば予防することができる。そのことを知って欲しいという。しかし、知識を持っていても、実際にセックスを



する場面で、コンドームを付けることが出来なければ意味がないともいう。

岩室氏は、人間関係や人のつながりの重要性を強調する。人間関係を改善することは、知識を教育することよりも重要なのであるという。

お二人の講演の後、熱い対談が繰り広げられた。男性と女性、泌尿器科医と産婦人科医、性感染症にフォーカスする立場と避妊にフォーカスする立場からの意見が述べられた。

早乙女氏、岩室氏の間にはいくつかの異なる立脚点があるが、だからこそ興味深く熱い20分間の対談になった。

フクシマから見る”性・家族” — 災害が引き起こしたオトコとオンナの実態 —

午後4時30分より宇野賀津子氏が「フクシマから見る”性・家族” — 災害が引き起こしたオトコとオンナの実態 —」という講演を行った。

宇野氏は、免疫の研究に加えて、エイズ教育や外国人医療体制の確立のための活動や女性研究者支援活動にかかわってきた。2011年秋からは日本学術振興会産学協力研究事業にかかわる説明会チームの一員として、福島県白河市など低線量放射線についての学習会の講師を務めてきた。その後、福島日赤や福島県および福島の市町村の要請で、福島県各地で低線量放射線の生体影響克服と食の重要性について報告している。

講演では、世界各地の放射能に関する諸事情を紹介



し、福島における放射能の影響を詳細なデータをもとに社会環境と免疫力の間には相関関係があるという興味深い分析データを示した。これらのデータは、現地での支援活動は性差を考慮すべきであるということを示唆しているとも強調する。

宇野氏は、さまざまな専門家が集まって作業する中で、物理系と生物・医学系の研究者との間に存在する放射線に対する理解のギャップを感じている。放射線を扱い、原子炉の研究をしてきた物理系研究者にとって、放射線は突き詰めれば原爆・水爆など危険なものという意識があり、多少その影響を大げさに言ってもよいという傾向が強いという。

一方で、生物・医学系の研究者は放射線生物学や放射線医療など、例えばがん治療では概算して総計数十Sv（シーベルト）を照射することもあるので、少々の数値では驚かないという。

こうした専門家間のギャップが「どの情報が正確なのかわからない」、「誰の言うことが本当かわからない」という不安につながる一要因だと感じるという、かつてのエイズパニックを教訓に、過小に言うのも過大に言うのも不正義だと思っており、なるべく現実的な数値を出して発信するのが研究者の務めだと述べられた。



プログラム終了後、「お楽しみ抽選会」が行われ、様々な性にかかわるグッズが参加者にプレゼントされた。

今回の「JASE 性教育研修セミナー夏 2016・性の健康デー記念イベント 2016 in 京都」の実行委員長は京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻の岩田歩子氏が務めた。その影響もあってか若い人たちの参加が多かった。

LINE でつながる

ドクター

Dr.上村茂仁の

性の悩みクリニック

かみむら しげひと

ウィメンズクリニック・
かみむら院長（岡山県
岡山市）、医学博士

連載第8回 ▶▶ セックスの経験がないのに性病に！

性病になったみたいです。

おりものも黄色いし、変な臭いがして、親にも言えないしどうしたらいいのが不安です。

中学2年生の女子から Line で、

「性病になったみたいです。おりものも黄色いし、変な臭いがして、親にも言えないしどうしたらいいのが不安で……」

それは大変とメールのやり取りをしていると、この子はセックスの経験が無いことが判明。なぜ性病と思ったの、という問いに、

「セックスってどういうことか知らなかった。学校では教えてくれないし……」

「性行為経験がなくても膣の炎症は起こるんだよ。風邪引いたとき鼻炎になって鼻水が出ると同じように、膣の中にも、細菌は入って炎症を起こすんだよ」

もちろん性行為の時に菌が入って起こすことが多いけど、普通にトイレに行った時も感染するし、月経用ナプキンをまめに取り替えなくても簡単に起こります。またカンジダ膣炎と言って真菌症の一種はもともと膣の常在菌で、体力が消耗した時などに感染症状が起きます。

したがって性行為経験がなくても外陰部のかゆみや痛みがある場合、帯下の色が変で臭いもする時などは必ず婦人科に行って治療が必要です。検査も膣の表面についている分泌物を自分で綿棒で撮るくらいで簡単にできます。内診台に上がる必要はありません。ただし診察医に内診台できちっと採ってもらって顕微鏡でチェックするほうが、当日、すぐに結果がわかるのでその方がお勧めです。カンジダは今は洗浄しなくても薬を一回だけ飲んで治す方法もあります。

また他の子からは「妊娠してしまった……。避妊は必要ないと思ったので」という質問。

なぜ避妊は必要ないって思ったのという問いに、

「中学校で避妊は教えてくれなかった。学校では必要なことはいつも教えてくれると思った。でも性教育

では避妊について何も教えてくれなかった。だから中学生は必要ないのかと思って、どうしよう」

「月経が始まっているということは、排卵しているってことなので妊娠するのは当たり前。月経がある女性はたとえ小学生でも中学生でも体は赤ちゃんをつくろうといつもしているわけです。また勃起する男の子は精通があるということなので月経が開始した女性と、勃起するようになった男性がセックスしたら妊娠するのは当たり前です。また男性は勃起した時にペニスの先に透明な液が出ることが多くて、その液の中にすでに精子が含まれていることもあるから、射精しなくても、膣にペニスを挿入しただけで妊娠する可能性はあるんだよ」

確かに今の中学校の学習指導要領にそえばセックスについて語らないで HIV 感染や性感染症の話することになります。また不純異性行為はだめとか言うけど、何がダメなのかよくわからない。使っている言葉は性的接触だし。セックスを教えないくせに、中絶は駄目だとか性感染症の予防とか、いかにも子どもはセックスを知っているかのような前提で話が進んでいたりする。

これでは子どもたちは何がなにやらわからないまま、愛情に任せて行動してしまっても仕方ないと思います。きちんと具体的に理詰めで説明してあげないと何も守ってあげられない。教育が予防であるならその行動がなされる前に徹底していなければ意味がありません。薬物に対する教育もすべての学生が薬物を使用していると思ってしているわけではないはず。予防教育です。

なぜ性教育だけがいつもバッシングされるのかわからない。何が子どものためなのか、子ども目線で考えないと、大人の思い込みでは子どもは救われません。

ノーマライゼーション大使に就任して

東日本大震災後、毎月岩手県陸前高田市に入り続けています。陸前高田市は震災からの復興にあたって「ノーマライゼーションという言葉の知らないまちづくり」を進めています。災害弱者と言われる高齢者、障がい者、女性、子どものみならず、すべての人が暮らしやすい陸前高田市になるために何が必要なのかを議論し続けている中で、私が陸前高田市のノーマライゼーション大使に任命されました。

時を同じくして人身取引被害者サポートセンターライトハウスで「子どもを性の商品化から守るには」というセミナーで話をしたり、法務省関連の研修会で「災害と人権」の話をする機会をいただいたりする中で、「人権」を「健康」と言う視点から考えることで自分自身の中でより理解しやすくなりました。すなわち人権が侵害されている社会とは、自分自身の「障がい」や「セクシュアリティ」を日々、意識しつつ生きなければならない、生きづらい、ストレスが多い、不健康な社会だということです。そんな折、早乙女先生の前号原稿、「消費される性・消費させる性」を読ませていただき、考え込んでしまいました。

* *

AVを消費する立場として

正直に告白します。今でもAVをみます。AVを消費する立場にいます。早乙女先生が「誰かの尊厳を犯してまで手に入れる快楽は犯罪に他なりません」と書かれておられました。AVを視聴した男性を犯罪者とする、私は立派な犯罪者であり、この社会は犯罪者だらけということになります。この犯罪者だらけの社会をどうやって矯正させるかを健康づくりの視点から考えてみました。

* *

AV男優はあこがれの存在？

「AIDS文化フォーラム in 横浜」を通してAV男優さんと知り合う機会を得ました。彼らと話をしながら、

彼らは私にはできない、でもしたいという願望を持っている複数の人たちとの性交渉を実現している、ある意味スター的存在なのだ気づかされました。一方で、岩室紳也が願望、欲望だけで行動しないのも、あの世界は私にとってはファンタジーであって、自分自身のリアルの世界に持ち込んではいけないということも合わせても教えてくれているからです。

* *

AV女優さんのこころの内面は理解できない

AV男優さんをスター扱いする一方で、実はAV女優さんのこころの中は正直なところよくわかりません。「AIDS文化フォーラム in 横浜」に協力して下さった飯島愛さん。いろんな場面でご一緒させていただいた紅音ほたるさん。そして、先日福岡本願寺のパネルディスカッションでご一緒した吉沢明歩さん。3人と色々な話をさせてもらいましたが、正直なところ彼女たちがなぜAVに出るのかはいまだに理解できません。こう考える背景には自分の家族だったら、自分の友人だったら、知人だったら出て欲しくない、出るのは許さないと考えるからです。一方で、実際に性産業に従事し、ご両親の理解も得て素晴らしい活動を展開されている方もいます。そのような方に会うと、結局のところ、ご本人の気持ち、心構えが大事なのかなと思ってしまいます。

もちろん最近報道されている「AVへの出演を強要される女性の被害」は犯罪行為ですし、許せることはできません。しかし、すべての女優さんがAVへの出演を強要されているわけではありません。では、自らの意思で出ているのであれば、大人の選択ということそのままでOKを出していいのでしょうか。そこを健康づくりの側面から考えてみました。

* *

元AV女優さんたちの早世

先に紹介させていただいた飯島愛さんは36歳で、紅音ほたるさんは32歳の若さで亡くなられています。

自分が関わったことがあるお二人が若くして亡くなったという事実は、健康づくりを専門としている医者として大いに考えさせられるものがあります。

健康の定義（表）に照らし合わせると、彼女たちが mental = 精神的に、spiritual 的に、social = 社会的に、well-being = 良好、な状態だったかどうか。AVの問題は「性の消費」の問題でもあります。当事者の健康づくりという視点で捉えた時、課題は何で、背景に何があり、対策として何ができるのでしょうか。

表 WHO の健康の定義改正案(1999年)

“Health is a dynamic state of complete physical, mental, spiritual and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.”

* *

「ダメ。ゼツタイ。」がダメな訳

薬物依存症対策で「ダメ。ゼツタイ。」というのを聞いたことがあると思います。このメッセージは予防対策としてはあまりにも稚拙です。「覚せい剤やめますか？それとも人間やめますか？」も同じです。

熊谷晋一郎先生の「自立は依存先を増やすこと」という言葉は、人間が生きていく上で、いろんな人に、いろんなことに依存する、よりどころを多く持つことが重要であることを教えてくれています。薬物依存症の原因は依存不足です。皆さんが薬物に手を出さない理由は「ダメ。ゼツタイ」と誰かに教えられたからではなく、社会からも肯定される依存先（図の中の○○）、よりどころを複数持っているからです。

しかし、そのような肯定される依存先がない、作れない人は薬物に走り、薬物依存になります。その薬物

依存先がある	依存先を奪うと
自立のための依存先 (○○)	虚無感
自立のための依存先 (仕事)	自立のための依存先 (仕事)
自立のための依存先 (家庭)	自立のための依存先 (家庭)

を取り上げられたら虚無感に襲われ、再び薬物に手を出すだけです。薬物が埋めていたものにも変わる何かを、依存先をその人が手に入れられなければ、また薬物に依存する、手を出すだけです。依存症から真の意味で回復するには新たな依存先を見つける、それも一つではなく、複数作ることが求められています。もちろん薬物乱用を予防したいのであれば、依存先を増やす方向での取り組みを考える必要があります。

昨今の日本は考えることを放棄し、誰にでもわかる答えを求め、「ダメなものダメ」の論法を健康づくりの分野に持ち込み、「たばこは吸うのはダメ」「メタボは食べ過ぎ、飲みすぎ、運動不足で、それができなければペナルティを」「性感染症予防にはノーセックス」。このように「単純な正解」を押し付け、それが守れない人を否定する、それこそ人権が守られてない社会になっていないでしょうか。

* *

当事者の声に学ぶことから

松本俊彦先生は『よくわかる SMARPP ～あなたにもできる薬物依存者支援～』の中で薬物依存症の回復を支援するために重要なポイントを指摘しています。

- ★失敗したことが正直に言える場所がある
- ★当事者、援助者同士の「つながり」の促進
- ★薬物使用発覚は治療を深める絶好の機会
- ★苦痛を緩和するための依存症
- ★依存者に見られる援助希求性の乏しさ
- ★援助者は当事者に学ぶ姿勢を

これらは薬物依存症だけではなく、アルコール、インターネット、お金、仕事など、「依存」という要素が絡むすべてのことに当てはまります。「自立は依存先を増やすこと」は健康面からも大事にしなければならない視点です。

AV出演を肯定的な「依存」ととらえ、AV女優という仕事が健康面でどのようなメリットがあるのか。AV出演以外にどのような依存先をもっておられるのかを検証したいものです。それができれば、AVに出ていた人たちが早世しないようにするための方策も見つかるはず。AV出演の是非を議論するのではなく、AV出演者の健康づくりに業界として取り組めるような支援をしたいと思いました。

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

“生きる、学ぶ、働く姿”からの発信

「赤ちゃんポスト」のニュースが世間を騒がせたのは、2007年5月のこと。あれから9年半が経つものの、当時の衝撃の大きさは忘れられない。熊本県の慈恵病院の取り組みであり、親が育てられない乳児を匿名で保護するこのシステムの名称は「このとりのゆりかご」というが、通称として普及した「赤ちゃんポスト」の響きの“軽さ”もあってか、当時は「育児放棄を助長する」「親が子どもを捨てるなんて」「のちに捨てられたと知った子どもが悩むはず」といった批判や疑問の声が多く寄せられた。いわば、社会から温かく歓迎されたとはいえない出自をもつ「このとりのゆりかご」誕生の経緯とその後の活動について、同病院の看護部長として運営の中心的役割を担っていた田尻由貴子氏が綴っている。

慈恵病院の前身であった宣教師によるカトリック教会では、当時、裏手の寺に集まっていたハンセン病患者の救済にあたり、フランシスコ修道会から派遣されたシスターによって、自然と乳児院としての役割も担うようになったという。こうした同病院の歴史や使命も、遺児を救いたいという願いの実現化に深く関わっていたと思われる。

それでも、医療従事者にとって、この選択は決して容易なものではなかったはずだ。大きな葛藤のなかで、それでも赤ちゃんの命を全力で守ることを決意する。そして、そのままの先には、つねに、不安や戸惑いを感じ、孤立している母親の姿がある。「このとりのゆりかご」には、母親へメッセージを届ける工夫がこらされている。赤ちゃんを死なさずに連れてきた母親を待ち、受け止めようとする。これはギリギリのところまで精一杯の選択をした母親への支援なのだ。事実、この運用が開始されてから、保護した子どもの人数（8年間で112名）



はい。赤ちゃん相談室、田尻です。

このとりのゆりかご・24時間
SOS 赤ちゃん電話相談室の現場

田尻由貴子著
ミネルヴァ書房
定価 1,800 円+税

が減少しつつあるのに対し、妊娠や子育てに悩む女性からの相談件数は急増しているという。小学生の妊婦から、子どもの妊娠を知らされた親世代まで、幅広い女性たちの受け皿として機能している。しかし、残念ながら、こうした窓口は全国で不足しているのが実情である。

こうした取り組みの経緯や現状も興味深いものだが、本書の魅力は、著者自身の生き立ち、そして幅広い活動やキャリアを可能にした一女性のパワフルな生きざまにもある。

終戦から5年、豊かさのかけらもなかったという小さな田舎町で生まれた著者は、中学卒業後、慈恵病院が運営する全寮制の准看護学校に進学する。高校の通信教育を受けながら、「うれしくてたまらなかった」という筆者。その後も意欲的に勉学に励み、シスターや仲間、きょうだいの支えを得て、正看護師と保健師、助産師の資格をとる。新設の保健管理センターではさまざまな企画を立て、異動した病院では総婦長として訪問看護のプロジェクトにも関与。どんなときでも、筆者の学び方・働き方がとにかく生真面目なのだ。例えば、総婦長を引き受ければ、病院内のあらゆる病棟で、夜勤も体験しながら、現状を把握しようとする。「スタッフと同じ目線に立つ」「現場をしっかりと自分の目で見る」というのが徹底されている。その後、社会福祉士の資格も取り、児童養護施設での研修経験のなかで社会的養護の限界を実感したことが、再び戻ってきた慈恵病院での「このとりのゆりかご」と特別養子縁組の取り組みを推進させていく力となる。

田尻氏の“生きる・学ぶ・働く姿”から気づかされるのは、どんなときにも現場を自分の目で見て、仲間とつながることの大切さである。不安を抱えた母親の目には、“生きる支援者の姿”が映っている。支援者がどう学び、どう働いているのか。「はい。田尻です。」と自信をもって名乗れるような仕事ができているか——それが問われていると感じた。（大阪大学大学院准教授 野坂祐子）

12/3 (土)
13:00~15:30

AOFS Japan Presents
Special Lecture and Cross-Talk on

男児の性器切除と 身体の統合性・完全性に関する権利

Genital Cutting of Boys and the Rights to Bodily Integrity

講師 Tiina Vilponen : ティナ・ヴィルポネン (フィンランド・セクスポ財団)

ティナ・ヴィルポネン氏は、セクスポ財団の中でも「性器の自律性、完全性・統合性」について、国際的な学会で最も活発に発表を行っている専門家のひとりです。権利としての性器の自律性 (genital autonomy) を保障している、しているはずの様々な公文書、宣言文や規則、性器切除がもたらしうる様々な危害に関するエビデンス、北欧における取り組みや議論の最新動向についてご紹介いただきます。(逐次通訳付き)

会場 日本性教育協会・会議室 (東京都文京区小石川 2-3-23-B1)

主催 AOFS-Japan 協賛・日本性教育協会

参加費・申込み方法等

参加費 / 1,000円 定員 / 30名 (要事前予約・どなたでも参加可)

申込み方法 / 件名 (タイトル) に「12/3 申し込み」、本文に①名前、②所属、③連絡先、④国際会議助成・奨学金制度申込み希望の有無をご記入の上、AOFS-Japan 事務局までメール (info@jfs1996.jp) でお申込みください。

※なお、本企画は、2017年5月28日～31日にブラハで開催される WAS (国際セクシュアルヘルス学会) の隔年会議への参加助成・奨学金制度の説明会を兼ねています。国際会議への参加を検討されている方は、奮ってご参加ください。

助成・奨学金制度の詳細は、日本性科学連合ウェブサイトに掲載されます。 <http://www.jfs1996.jp>

▶▶ **12月4日 (日) 15:30 ~ 18:00** ◀◀

第4回 北東北性教育研修セミナー2016 秋

LIVING TOGETHER

— HIV/AIDS への差別 / 偏見 / スティグマ : 生きづらさを生み出す社会の課題 —

1994年から東京を拠点に HIV/AIDS に関する陽性者支援、そして社会啓発に関する活動を展開してこられた NPO 法人ふれいす東京で代表を務めていらっしゃる生島嗣氏、そして青森県健康福祉部保健衛生課の渋谷憲司氏をお呼びし、国内及び県内の現状を踏まえて HIV/AIDS についての学びを深め、私たちの暮らすこの街が、差別や偏見を誰かに植え付けることの無い生きやすい社会になるよう一緒に考えましょう。

講師 生島 嗣氏 (NPO 法人ふれいす東京代表)

渋谷憲司氏 (青森県健康福祉部保健衛生課総括主幹)

会場 青森市男女共同参画プラザ カダール研修室

青森市新町 1-3-7 TEL 017-776-8800 ※会場の問い合わせのみ

参加費・申込み先等

参加費 : 資料代 500円 主催 : 北東北性教育研修セミナー実行委員会 協賛 : 日本性教育協会

申込み先 : E-mail rc-net@goo.jp または青森市安方 1-3-24-2F 「北東北性教育研修セミナー実行委員会」までお名前・連絡先・所属 (ある場合) を明記してお申込下さい。

12/3 (土)
12/4 (日)

日本性感染症学会 第29回学術大会 性感染症に立ち向かう新たな風になろう

★主なプログラム★ (詳細はホームページをご覧ください <http://www.med-gakkai.org/29sti/>)

- 〈3日〉 14:30～15:20 特別講演:「HIV感染症の現状と課題」岡 慎一 (国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター)
15:30～16:00 教育講演1:「淋病の薬剤耐性化とそのメカニズム」大西 真 (国立感染症研究所細菌第一部)
16:00～16:30 教育講演2:「HIV感染に対する免疫制御・予防と治療の将来展望」川名 敬 (日本大学医学部産婦人科学系産婦人科学分野)
- 〈4日〉 16:40～18:10 シンポジウム1:「母子の健康と性感染症予防教育」
9:00～10:15 シンポジウム2:「尿道炎原因菌に対する抗菌活性」
10:15～11:45 シンポジウム3:「性器外の性感染症を検討する」

【会場】岡山コンベンションセンター (岡山県岡山市北町区駅元町 14-1)

【問い合わせ先等】

参加費/医師・医療従事者・企業 15,000円 (学会のみ)、4日単日参加 10,000円、医学部学生・大学院生 (社会人は除く)・初期研修医は無料

問合せ先/運営事務局:株式会社メッド 〒701-0114 岡山県倉敷市松島 1075-3

TEL 086-463-5344 FAX 086-463-5345 E-mail 29sti@med-gakkai.org

1/21 (土)

第111回
「性を語る会」シンポジウム

13:00～17:00

「障害者権利条約」は、 守られているか？

神奈川県相模原市の「津久井やまゆり園」で発生した惨事により、日本中が鉛のような重苦しい空気に覆われています。事件が突きつけた、容疑者の『措置入院』とは何か？ 障害者の人権、共生社会のあり方を討議したいと、企画しました。

【会場】アーニホール

(東京都世田谷区用賀 3-5-6)

【問い合わせ先等】

主催・問合せ先/「性を語る会」事務局 (担当:平)

TEL 03-3 708-7326 FAX 03-3708-7324

E-mail info@ahni.co.jp

▶▶ 1月22日 (日) 13:00～17:00 ◀◀

第8回 臨床現場の医師のための

性感染症最新講座

内容

- 講演① 「最新の診断と治療—性感染症ガイドラインの主な変更点」
講演② 「梅毒最新情報」
講演③ 「ジカウイルス感染症」
講演④ 「胎児感染をきたすことのある感染症—TORCH症候群」

(講師は、決定次第ホームページで告知 <http://www.jfshn.org/>)

【会場】林野会館 603 中ホール

(東京都文京区大塚 3-28-7)

主催・問い合わせ等

受講料/5,000円 定員/50名(先着順) 対象/医師、医療従事者

主催・問合せ先/公益財団法人 性の健康医学財団

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-6 湯島堀井ビル

TEL 03-3813-4098

E-mail: info@jfshn.org

2014年3月 WAS 諮問委員会で承認された改訂版「性の権利宣言」を増補

〔増補版〕『セクシュアル・ヘルスの推進 行動のための提言』

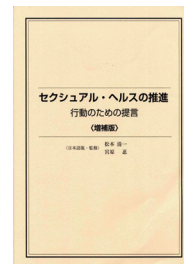
日本語版監修 松本清一・宮原 忍

◆B5判：72頁、頒価 800円

主な内容

セクシュアル・ヘルスの特徴/セクシュアル・ヘルス上の留意点と問題/セクシュアル・ヘルス増進のための行動と戦略/WASの「性の権利宣言（初版）/WASの「性の権利宣言」（改訂版）

※送料：1冊 250円、2冊～7冊 360円、8・9冊 510円、10～12冊 870円、13冊～19冊 1180円、20冊以上無料。

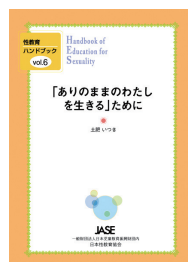


性教育ハンドブック Vol.6

『「ありのままのわたしを生きる」ために』

土肥いつき著

◆A5判：86頁、頒価 500円



主な内容

港にて（自分史の試み…）/船出のとき（小さなトゲのような思い…）/帆をあげる（教員生活のはじまり…）/舵を切る（「身体改造の」開始…）/嵐の中で/かすかに見えた航路/新たな旅へ

著者プロフィール

1985年より京都府立高校教員。セクシュアルマイノリティ教職員ネットワーク副代表、トランスジェンダー生徒交流会世話人、まんまるの会（関西医科大学附属病院ジェンダークリニック受診者の会）世話人代表など。映画『coming out story』に出演。

既刊（性教育ハンドブック）

☆性教育ハンドブック Vol.5 『21世紀の課題＝今こそ、エイズを考える』池上千寿子著 A5判・68頁 500円

☆性教育ハンドブック Vol.4 『性教育の歴史を尋ねる～戦前編～』茂木輝順著 A5判・92頁 500円

※送料：1～4冊 180円、5冊～8冊 360円、9冊 510円、10～14冊 870円、15冊～19冊 1180円、20冊以上無料。

◆JASE ホームページ <http://www.jase.faje.or.jp/pub/pub.html> からお申し込みいただけます。

または、Email info_jase@faje.or.jp TEL 03-6801-9307 FAX 03-5800-0478

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約6万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧】必ず事前に電話で予約が必要です（tel 03-6801-9307）。貸出業務は行っていません。

【開室日・時間】月～金曜日 10：30～17：30

【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始 ※この他、会議等で臨時に休室することがあります。

【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず1枚10円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。

<http://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html>

資料室 利用方法

収集文献 ・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者・セクソロジー（自然科学系、人文・社会学系）、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際（海外団体資料・海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイヤモンド文庫、ほか。

<http://www3.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi>